

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 3. 13

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「命のかけ方」

牧師 松谷 祐二

ローマの信徒への手紙書 第五章六～一節

実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。敵であったときさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていたのだらう。御子の命によって救われるのはなおさらです。

それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていたのだらうからです。
(新共同訳聖書)

ロシアがウクライナに軍事侵攻するという悲しむべき事態の中で、教会暦では受難節(レント)に入りました。この文章を書いている時点では、停戦の見通しは立たず、さらに多くの民間人が犠牲になるのではないかと、核が用いられたり、原発が事故を起こしたりするのではないかと、気が気ではありません。

戦場では皆が命がけです。戦う者も、逃げる者も。傷ついた人を助けようとする者も。報道を通して見聞きするだけで、安全なところにいるわたくしや、わたしたちが、あれこれ言う資格はないのかもしれない。それを承知で、それでも考えてしまいます。何のために命をかけるのかと。

領土を得ること、歴史的な大業を成し遂げるために命をかけるべきでしょうか。虐げられた

同胞を守るために命をかけるべきでしょうか。侵略者から祖国を、家族を守るために命をかけるべきでしょうか。詰まるところ、命を守るために命をかけるべきでしょうか。しかし、戦争をする、戦う、ということは敵の命を取ることで、敵の命は守らないという選択をすることです。そして、「敵」の側にも「命を守るために命をかけるのだ」という論理が成り立つこととなります。始めてしまえば、簡単には終わらせられないはずで、

パウロは、ローマにいる教会の人々、クリスチャンの仲間たちにあてて書いた手紙の中で、神の愛について語りました。神ご自身の非常に独特な、他の者にはまねのできないような、わたしたちに対する愛の示し方について。イエス・キリスト——神と常に一心同体とも言うべき、神の御子——この方の死によって、神はわたしたちに対する愛を示されました、と。

パウロは考えます。自分の時代の世情を思いながらでしょうか、「正しい人のために死ぬ者はほとんどいません」と。正義を唱える人は世の中に多くいる。正しい徳目を説く人も。しかし、その人のために死ぬるか、命をかけられるかと言え、そういう者はほとんどいないだろう。もう一歩高く評価される人のためなら——「善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれない」。正義をただ唱えるだけ、徳目を説くだけでなく、自らそれを体現して生きる人。「あれこそ本物の善人だ、まさに善の権化だ」と認められるほどの人がいれば、その人についていき、その人やその理想のために命を惜しまないような者が少しはいるかもしれない。

要するに、「正義や善のために死ぬ人、命をかける人なら、ごくまれではあるが、少しはいるかもしれない」というのがパウロの観察です。

振り返って今、戦争状態の中では、命を惜しまない人、命をかける人が、少しどころか、かなり沢山いるように見えます。それぞれ正しい人、善い人、と信じる人のため、正しいこと、善いこと、と信じるためのために。

ところが、パウロが本当に注目しているのは、そちらではありません。もっともつとまれない、否、

地上を見渡してもまず見出せないような死に方、命のかけ方。神の御子イエス・キリストが選び取られた、死に方、命のかけ方です。

「実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった」。

「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださった」。

神の御子イエス・キリストは、正しい、善い、人や理想のために命をかけ、死んだではありません。敵のために死んだのです。敵とはだれか。イエスを敵視したユダヤ人の宗教的・政治的指導者たちのことでしょうか。十字架刑を言い渡したローマの総督ポンテオ・ピラトのことでしょうか。いいえ、彼らのことも含みますが、他のだれよりもまず、わたしたちのことです。

「わたしたちがまだ(罪の支配力に対して、罪へのいざないに対して)弱かったころ」「不信心な者」であった、「罪人であった」、「(神の)敵であった」、そういうわたしたちのために、先んじてキリストは命をかけ、死なれたのです。それによってこそ神は、ご自身の、神ならではのわたしたちに対する愛を示されました。わたしたちは「敵であったときさえ、御子の死によって神と和解させていただいた」。神と御子イエス・キリストは、敵であったわたしたちを赦して和解するため、和らぐため、仲良くするために、命をかけ、死なれたのです。

これは世の常識ではありません。理解しがたいことです。ただ少なくとも、イエス・キリストを信じて生きるようになったクリスチャンたちは、理解しつくせないまでも、信じているはずのことです。信じている通りに自らも本気で生き始めるなら、多くのことが変わるはずなのです。

戦争状態の渦中にある人々に、安全なところからあれこれ言うべきではないかもしれませんが、それでも、こんな悲劇が起こらないこと、繰り返さないことを本当に願うなら、神とキリストの命のかけ方を、わたしたちは心に刻みつけるべきではないでしょうか。

報告

*教会創立百周年記念文集が出来上がりました。原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。

*日本基督教団新宿伝道所(二〇一八年十一月閉会)から、六十年間の記録集をご寄贈頂きました。

*日本キリスト教会帯広教会に転会されていた本田タヅ子姉が、横浜に戻ってこられました。それに伴い、当教会に転入のご希望がありましたので、二月六日(日)の役員会の議を経て、陪餐会員としてお受け入れしました。

*受洗、信仰告白、伝道者としての献身をお考えの方は、牧師までご相談ください。

《各部報告》

成人会

日時 一月十六日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 二名

内容 士師記 十九章〜二十一章

紀元前に同性愛が存在していたことに驚いた。レビ人がベツレヘムで側女にした女と、若い男を連れて故郷に帰る途中、ギブアで泊めてくれた老人の家にならずに者が押し掛けてきた。男を差し出さなかったのが代替えの側女に極悪非道なことをして死なせた。レビ人は側女の身体を十二の部分に切り離してイスラエル全

土に送り付けた。イスラエルの人々は理由を聞いて悪を取り除こうとしたがベニヤミン族の人は戦いを挑んだ。その結果、最後は神が正しい道に導いてくださった。

十一部族になりかけたが、十二部族でなくってはいけないと、イスラエルの人々は思ってしまった。この時のイスラエルにはまだ「王」はいない。
(下奥敏子 報)

日時 二月二十日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 三名
開会祈祷 ヤング肇子姉
内容 創世記一章〜二章

創世記一…「神が天と地を創造された」と始まる壮大な天地創造の物語である。神は天の大空を造り、上と下とに水を分けられ、下の水を乾いた地と海とに区別された。
一章においては一日目から六日目までに天と地、そしてすべての生き物、草木に続いて人を造られた。ところが、二章において二度目の創造が記されている。ここでは人の創造に焦点を当て詳しく創造の様子が描かれている。人は神にかたどって創造された。この「かたどって」という言葉の意味は深く、様々な解釈がなされているが、神さまから見ると私たち人間はどういった存在なのでしょうか?この創世記は新約聖書のイエス・キリストを指し示した物語である。
(ヤング肇子 報)

婦人会

次回 創世記三章〜五章
司会 菊池才知子姉

日時 一月二十三日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 四名

開会祈祷 菊池才知子姉

閉会祈祷 主の祈り

内容

聖書研究 サムエル記下二十二〜二十四章
二十二章二〜四節 ダビデの感謝の歌
主が全ての敵の手から、サウルから救い出されたとき、ダビデは主に歌をささげた。詩編十八に同じ内容の詩句がある。

二十三章 二〜七節ダビデの最後の言葉(遺言) 八〜三十八節 ダビデの部下の軍人のリストとそれぞれの功績。
二十四章 ダビデの失敗 人間の考える悪も神の手のうちにある。人口調査は傲慢の印であり、武力調査は神を信頼していないことになる。疫病の蔓延は主の御手によるもの。
アラウナの麦打ち場 エルサレムの神殿が建てられる場所。サムエル記は 真の王たるものはどうあるべきかを物語っている。

聖書は真の王は神であると語っている。
真の王はイエスキリストである。
(菊池才知子 報)

日時 二月二十七日
出席者 六名

開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 主の祈り
内容

聖書研究 列王記上「一章〜二章

高齢となったダビデ王は、老衰甚だしく基礎代謝も低下して冷え症になっていた。心配した家臣たちは湯たんぽ代わりに若い美人アビシヤグを侍らせた。王は彼女に手をふれなかった。王の息子アブサロムの弟アドニヤが王位継承を宣言した。ダビデの甥ヨアブと祭司アビアタルは彼を支持した。預言者ナタンは王により、ソロモンの母バト・シェバは王にアドニヤの王位継承について詰問する。ナタンは、ソロモンの母に加勢して王位継承者を明確に宣下するよう迫る。王はソロモンを後継者と宣下し、即位の手順を指示する。ソロモン王はアドニヤを解放して、ソロモン体制が確立した。ダビデは死期に当たってソロモンに遺言を遺した。主の掟と戒め律法を守ればダビデ王家は繁栄する。王に対して悪を行ったダビデが赦したヨアブと、かつてダビデを呪ったがその後恭順の意を見せたシムイの二人を自然死させてはならないと。アドニヤがアビシヤグを妻にと願ったこととソロモンはアドニヤを討たせた。アドニヤに加担した主の祭司アビアタルを解任し、ヨアブを討たせた。エルサレム城内に軟禁状態に処したシムイが逃亡した二人の僕を連れ戻した禁を破ってエルサレムから外出したことでソロモンはシムイを討たせた。
(菊池才知子 報)